

12月議会 一般質問

- ①脱炭素と地域活性化
②沖ノ島環境保全協力金
について質問しました！



詳しくはYouTubeでも
ご覧いただけます
(10:00~)

1 脱炭素と
地域活性化

年々厳しさを増す気候変動ですが、世界的な脱炭素の潮流の中で、実はCO2削減は、大きな市場に変化しつつあります。

企業はCO2の削減が義務化され、仮に業種によって削減が難しい場合は、他の削減されたCO2を購入して補う(=カーボンオフセット)ことができます。

国は、企業や団体(対象制限なし)が、従来よりCO2を削減した、または森林や海の資源で吸収した場合、その量を国がクレジットとして認証する制度「Jクレジット」を推進しています。カーボンオフセットの仕組みにより、CO2の売買が加速しているのです。

倫理的な課題は国が制度で改善すべきですが、この仕組み自体は、海や森の資源に恵まれた本市には有利です。

例えば、養殖と同時に海藻を増やし、海藻のCO2吸収をクレジット化して販売する

取り組みなどが頻繁にニュースでも放送されています。

農業も担い手不足や耕作放棄地の増加が深刻化していますが、畑を継続しつつ上部で太陽光発電を行う「営農型太陽光発電」(ソーラーシェアリング)には期待を寄せています。

本市も令和3年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、「地球温暖化対策実行計画」を立てて脱炭素に取り組んでいます。

今後はあらゆる分野で「Jクレジット」の創出の可能性を検討するとともに、官民連携で脱炭素を推進していくとの回答がありました。

2 沖ノ島環境保全
協力金

ご存じのとおり、館山市最大級の観光名所となった沖ノ島では、「沖ノ島環境保全協力金」という仕組みで、協力金を募る活動が行われており、今夏は、過去最多の1306万円に上りました。

これまで「北条海岸の駐車場を有料化してほしい」などと、幾多の要望をみても、県管轄の土地であることや、海岸法や港湾法に縛られ進展がみられない中、「協力金」でこれほど多額の支援が得られたことは画期的なことだと思います。

協力金は今夏沖ノ島に駐車した台数26000台に対し、協力口数は13000台とのことで、約5割の方が協力。本

来市が負担する経費に充てられているため、やはり大きな成果だと思えます。

一方、経費負担の軽減にはなっていますが、保全の新しい活動に結びついてはいけません。条例で特別保護区域を指定して駐車料金を徴収し、清掃活動や管理従事者を雇用している先事例もあります。協力金は、強制的な徴収は難しいですが、条例を制定するなり、協力者増加を目指していくべきだと要望しました。

終わりに



年越しは、長須賀壮年会の皆さまと過ごし、新年は熊野神社で迎えました。太鼓や踊り、持ち投げや豚汁の振る舞いがあり、多くの地域住民が参拝に訪れて新年を祝っていました。初参加でしたが、こうした営みが続けられていることに感動しました。

旧年は私にとってかつてない挑戦の年であり、改めて支えてくださった周囲の方々から感謝しています。気を引き締めて日々実践、研鑽を積みしたいと思います。本年もよろしく願いいたします。